



Title	センターだより 大阪大学大型計算機センターニュース 第49号 (Vol.13 No.1)
Author(s)	
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1983, 49, p. 1-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65562
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

昭和58年度上半期プログラム相談室の担当

昭和58年度上半期のプログラム相談室の担当は次のとおりですので、プログラム相談を受けられる方は、2階のプログラム相談室で相談票に相談事項を記入のうえ御相談下さい。

	10:00~12:00	1:00~3:00	3:00~5:00
月	氏名：浜 重一朗 所属：阪大・基礎工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：平田 隆敏 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：富田 昌明 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN
火	氏名：池田 敏雄 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：日岡 孝則 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：山本 敏久 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN
水		氏名：山田 稔 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・SPSS	氏名：家本 修 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・SPSS
木	氏名：工藤 英男 所属：阪大・基礎工学部 専門：FORTRAN・PL/I	氏名：キム・ジュン 所属：阪大・経済学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：山口 高平 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・LISP・PROLOG
金	氏名：田中 直樹 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：塩野 充 所属：岡山理科大学・理学部 専門：FORTRAN・PL/I	
土	氏名：高木 達也 所属：阪大・薬学部 専門：FORTRAN・TSS		
月	氏名：桑原 克仁 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：平田 隆敏 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：富田 昌明 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN
火	氏名：木本 務 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：日岡 孝則 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：山本 敏久 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN
水		氏名：原 昭浩 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：家本 修 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・SPSS
木	氏名：工藤 英男 所属：阪大・基礎工学部 専門：FORTRAN・PL/I	氏名：打浪 清一 所属：阪大・工学部 専門：FORTRAN・LISP	
金	氏名：多田 栄一 所属：阪大・基礎工学部 専門：FORTRAN・TSS	氏名：武知 英夫 所属：阿南工業高等専門学校 専門：FORTRAN・TSS	
土	氏名：高木 達也 所属：阪大・薬学部 専門：FORTRAN・TSS		

プログラム指導員について

昭和47年からプログラム指導員制度を設け、各連絡所においてセンター利用者のためのプログラム指導を実施してきました。しかしながら、プログラム指導員の活動は、諸般の事情により中断していました。

教育広報委員会等では、プログラム指導員制度の活性化のための方策について種々検討いたしました結果、昭和58年度より第6地区の連絡所に限定し、プログラム指導員を復活することになりました。

プログラム指導員は、大口利用者を有する連絡所またはジョブ処理件数の多い連絡所のうちで最も利用頻度の高い利用者に対してセンターから依頼し、承諾を得たものです。

遠隔地の利用者は、下表の各連絡所所属のプログラム指導員に相談して下さるようお願いします。

プログラム指導員一覧表

氏名	所属及び連絡先	身分	プログラム指導曜日	場所	内容
富永 昌治	大阪電気通信大学 工学部 精密工学科 〒572 寝屋川市初町18-8 Tel 0720-24-1131(253)	助教授	適時	研究室	FORTRAN
平野 俊雄	高松工業高等専門学校 機械工学科 〒761 高松市勅使町355 Tel 0878-67-0276	助教授	適時	研究室	FORTRAN
西田 修身	神戸商船大学 商船学部 機関学科 〒658 神戸市東灘区深江南町 5丁目1番1号 Tel 078-453-2332(330)	助教授	適時	研究室	FORTRAN
石田 寿昌	大阪薬科大学 薬学部 薬学科 〒580 松原市河合2丁目10番 65号 Tel 0723-32-1015(298)	講師	毎週月曜日 午後	研究室	FORTRAN

氏名	所属及び連絡先	身分	プログラム 指導曜日	場所	内容
村上 益美	大阪市立大学 工学部 建築学科 〒558 大阪市住吉区杉本3丁目3番138号 Tel 06-692-1231(3437)	助手	毎週水曜日 午前10時~12時	研究室	FORTTRAN
天根 哲治	兵庫教育大学 学校教育学部 第一部(教育方法講座) 〒673-14 兵庫県加東郡社町下久米942-1 Tel 07954-4-1101(309)	助手	適時 午後	研究室	FORTTRAN SPSS
平井 國友	奈良県立医科大学 医学部 医学科 〒634 橿原市四条町840 Tel 07442-2-3051(2270)	助手	毎週木曜日 午後	研究室	FORTTRAN
山田 勝稔	徳島大学工業短期大学部 生産機械工学科 〒770 徳島市南常三島町2の1 Tel 0886-23-2311(457)	講師	午後	研究室	FORTTRAN
柳瀬 章	大阪府立大学 総合科学部 総合科学科 〒591 堺市百舌鳥梅町4丁目804 Tel 0722-52-1161(2714)	教授	適時	研究室	FORTTRAN
南波 嘉幸	大阪教育大学 教育学部 物理化学第3研究室 〒543 大阪市天王寺区南河堀町4番88号 Tel 06-771-8131(225)	教授	毎週金曜日	研究室	FORTTRAN
近藤 敬一	阿南工業高等専門学校 電気工学科 〒774 阿南市見能林町青木265 Tel 0884-22-2010(361)	助教授	適時	研究室	FORTTRAN

氏 名	所属及び連絡先	身 分	プログラム 指導曜日	場 所	内 容
浅田 昌三	神戸女子薬科大学 薬学部 薬学科 〒658 神戸市東灘区本山北町 4-19-1 Tel 078-453-0031(201)	教 授	適 時	研究室	FORTTRAN
水嶋 巖	奈良工業高等専門学校 機械工学科 〒639-11 大和郡山市矢田町 22 Tel 07435-2-5213(264)	助教授	毎週火曜日～ 金曜日 適 時	研究室	FORTTRAN
古谷 博史	高知医科大学 医学部 一般教育等 〒781-51 南国市岡豊町小蓮 Tel 0888-66-5811	助 手	適 時	研究室	FORTTRAN PL/I
馬場口 登	愛媛大学 工学部 電子工学科 〒790 松山市文京町 Tel 0899-24-7111(3746)	助 手	適 時	研究室	FORTTRAN
杉山 司郎	大阪工業大学 工学部 機械工学科 〒535 大阪市旭区大宮5丁目 16番1号 Tel 06-952-3131	講 師	毎週月曜日午前 中、火曜日終日	研究室	FORTTRAN
吉村 幸雄	四国女子大学短期大学部 家政科 〒771-11 徳島市応神町古川 字戎子野123の1 Tel 0886-65-1300(210)	助教授	適 時	研究室	INQ COOD
太田 雅久	甲南大学 理学部 物理学科 〒658 神戸市東灘区岡本8丁 目9番1号 Tel 078-431-4341(283)	助教授	毎週金曜日 午後12時～13時	研究室	FORTTRAN

大型計算機利用に伴う利用者旅費について

利用者が、大型計算機センターを利用する場合、地域差を少なくするため遠隔地利用者には、利用者旅費支給の制度があります。これは、大型計算機センターに出張して計算機を利用する場合に旅費を支給する制度です。

利用者で旅費の支給を希望する場合は、下記要領によりセンター所定の申請書を提出して下さい。
(大学院生及び科学研究費による利用者には旅費を支給できません。)

なお、最近、鉄道運賃等の値上げにより旅費予算が年々窮屈になってきております。したがって年度途中において予算額を超過する見込みであれば、出張回数を制限することがありますので、あらかじめ御了承願います。

記

- 日帰り旅行……第5、第6地区で京阪神地区の利用者(注参照)は、日帰り旅行申請書を利用希望日の3日前までに本センター共同利用掛まで提出して下さい。(日帰り出張回数は、1人当月5回以内とします。)
- 宿泊を伴うもの…京阪神地区以外の利用者は、申請書を利用希望日の前月25日(必着)までに本センターに到着するように所属連絡所及び所属地区協を通じて提出して下さい。(センター滞在日数は、3日以内で月1回に限ります。)
- 旅費は、後日、銀行振込みにより送金します。
- 出張利用に関する問い合わせは、センター共同利用掛(06-877-5111 内線2817)までお願いします。

㈡ 京阪神地区の利用者(日帰り旅行適用者)は次の連絡所に所属する者

(第6地区) 大阪府下の全連絡所

奈良県下 ”

兵庫県下(姫路工業大学、兵庫教育大学は宿泊の対象となる)の全連絡所

和歌山県下(和歌山高専は宿泊の対象となる)の全連絡所

(第5地区) 京都府下(舞鶴高専は宿泊の対象となる)の全連絡所

滋賀県下(滋賀大学(彦根市)、滋賀県立短大は宿泊の対象となる)の全連絡所

(共同利用掛)

昭和58年度研究開発計画について

昭和58年度研究開発計画を公募した結果、次の9件の応募があり、昭和58年度研究開発として承認されました。

なお、センターでは引き続き研究開発計画を公募していますので、所定の用紙に必要事項を記入の上、共同利用掛まで提出して下さい。

申請者	所属	開発課題
笛野高之 (継続)	大阪大学基礎工学部 化学工学科	分子の非経験的HF計算の為のプログラム開発
北川浩 (継続)	大阪大学工学部 機械工学科	有限ひずみ弾塑性問題の3次元解析のための汎用有限要素法プログラムの開発
宮村修 (継続)	大阪大学基礎工学部 理数教室	REDUCE導入に伴う整備
佐々木喜男 (継続)	大阪大学薬学部 製薬化学科	半経験的分子軌道法プログラムMNDOの改良と整備
有本卓 (継続)	大阪大学基礎工学部 機械工学科	任意線図形のデータ圧縮について
北添康弘 (継続)	高知医科大学 医学部	産婦人科周期的データベースの開発
吉村幸男 (継続)	四国女子大学 短期大学部	食品と栄養データベースの作成
藤原隆二 (新規)	大阪大学薬学部 製薬化学科	日本語・医薬品情報データベースの作製
石桁正士 (新規)	大阪電気通信大学 工学部	学生実態調査のデータベース

初めて大型計算機センターを利用される方のためのガイドブック

新緑が目にしみ、快い初夏の風が頬をなぜるところになると、センターはこれから初めてコンピュータを利用しようとする方が、多少の不安と希望をもって多くおとずれます。

大阪大学大型計算機センターは、緑したたる吹田キャンパスの一角にあり、車では便利な所ですが、徒歩では阪急北千里駅から約20分ほど歩かねばなりません。(健康のためにかんばりましょう。)



建物の前に立つと足元から、モーターの回転音が低く聞えてきます。これは、定周波定電圧装置の音で、コンピュータの心臓の鼓動といった所です。

では建物の中に入りましょう。玄関は一見、風呂屋の下駄箱を思い起すように靴箱が並んでいますのでここでスリッパにはきかえます。

◎ 不明な点はまず利用者受付へ

さてセンターに来たものの何をどうすれば良いかわからない時は、まず利用者受付へ相談して下さい。利用者受付では、計算機利用に関する手続のことや、各種申請書の受付、センター刊行物の配布等を行っています。

まずあなたが、「何を行いたいのか?」目的がはっきり分かれば、次にどの方法で行うか? 手段を決めて下さい。コンピュータの処理方法には大きく分けて2つの処理形態があります。

1つは、「T S S 処理」で端末(電動タイプライターの様なものからパソコンの様なものまで各種あります。)から直接プログラムを入力し、その端末に処理結果を出力したり、アプリケーションパッケージ(すでに作られている汎用プログラム)にデータを入力し、その結果を得たりする方法です。

あと一つは、「B A T C H 処理」でプログラムとデータをカードにパンチしカードリーダーから入力し、ラインプリンターに処理結果を出力する方法です。

あなたは、どちらを選びますか?

もしまだ決まっていない様なら、「T S S 処理」をお勧めします。「T S S 処理」は簡単なコマ

ンドを覚えるだけで、入力、修正、実行が出来ますし、コマンドの組合せで高度な処理ができます。

また、必要に応じて、「BATCH処理」を「TSS処理」から依頼することもできます。

言い忘れましたが、処理を行うためのプログラムは、もう作成してありますか？ もしどのようなプログラムを作成していいのかわからない時は、遠慮なく2階のプログラム相談室に相談してください。

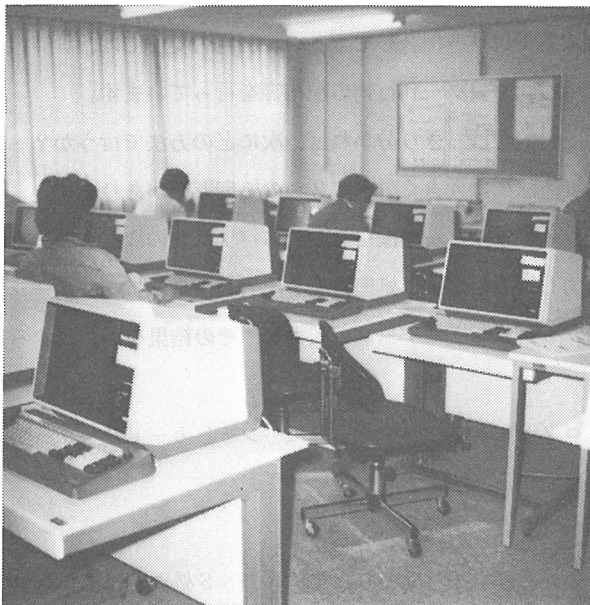
◎ TSS処理の方法

もしあなたが、TSS処理を選ばれたなら、プログラムコーディングシート（プログラムを書いた用紙）を持ってTSS端末室に行きます。（その前に利用者受付にて端末使用簿に予約をしておいて下さい）。もし研究室に端末がある場合は、その端末でもかまいません。

あなたに、よき先輩がいてコマンドを教えもらえるなら、すぐにでもTSSのとりこになるでしょう。教えてもらう人がいないときは、出来るだけセンターでの講習会を利用して下さい。またセンター発行の「TSSの手引」を無料で、お渡ししますから必要な方は、利用者受付まで申し出て下さい。

空いている端末の前に座り、深呼吸を一つしてさあ始めましょう。端末の電源を入れます。（端末によって場所が異なるが、POWER又は電源と表示してある）

ホストコンピューターと端末を接続（これをLOGONと言います）し作業に入ります。LOGONの方法がわからない時は、「TSSの手引」を続して下さい。



さてLOGONが済みますと、これからコマンドと言う命令によってホストコンピューターに指示を与えます。ここではFORTRAN77を実行するまでの簡単な例を上げます。

LOGONが済むとホストコンピューターは、

SYSTEM?

とサブシステム名を問い合せてきますのでここでFORTRAN77のサブシステム名

FR77

を打鍵します。

OLD OR NEW?

とファイル名を問合せますので、すでに登録したプログラムファイルがあれば「OLD」、新しく作成するのであれば「NEW」と打鍵します。

ここでは、新しく作成するので

NEW CR

を打鍵します。

※

が返ってきますのでここからプログラムを入力します。

TSS処理の場合、プログラムの各一行の先頭にラインナンバーといわれる一連の番号が必要となります。そしてFORTRAN 77のプログラムコーディング上の規則である6カラム目と7カラム目の規則がなくなります。すなわちプログラムの各行には、一連の番号が必要になるのは、後ほど修正する時に修正行を指定しやすくするためです。番号のすぐ後にCで始まる文字列があればコメント行と見なし、&で始まる文字列は継続行と見なします。そしてプログラムは、カラムを考

える必要なく入力することが出来ます。(これをラインナンバー付き、フリーフォーマット形式といいます。)

一連の番号を各行に付けるのは、非常に面倒なことです。そこでこの一連の行番号をコンピューターに付けさせるコマンドがあります。

「AUTO」これが一連番号を発生させるコマンドです。このコマンドを入力しますと10番から10の倍数ごと一連番号が発生します。

例を見ながら説明しましょう。FORTRAN 77

```

SYSTEM ?FRT77 ..... ①
OLD OR NEW-NEW
*AUTO ..... ②
*010 A=1
*020 B=2
*030 C=A+B
*040 WRITE(6,100) A,B,C
*050 100 FORMAT(1H ,3F6.0)
*060 STOP
*070 END
*080
*11ST ..... ③

010 A=1
020 B=2
030 C=A+B
040 WRITE(6,100) A,B,C
050 100 FORMAT(1H ,3F6.0)
060 STOP
070 END

*RUN
SOURCE LINE      50 ..... ④
<F> 1180 UNEXPECTED END OF STATEMENT
*0050 100 FORMAT(1H ,3F6.0) ..... ⑤
*RUN
      1.      2.      3
*
```

言語でプログラムを作成しますので、サブシステムは①でFRT77を入力します。

プログラムを入力する時、②でAUTOコマンドを入力し一連番号を発生させプログラムを入力していきます。

プログラムの入力が終われば、③でいままで入力したプログラムのリストを出力しています。

いよいよ、このプログラムを実行させましょう。RUNコマンドが実行を命令するコマンドです。RUNと入力します。

どうですかプログラムは実行したでしょうか、しませんね、実は、このプログラムは間違いが1ヶ所あります。そのエラーを指摘しているのが④の部分です。そこでその部分を修正して実行しているのが⑤の部分です。この様にTSSでは、プログラムを実行させ、間違いがあればその場で修正し再度実行させることができます。

しかし、なんでもかんでもTSS処理でできるわけではありません。メモリーサイズ(プログラムの作業領域や、プログラム領域の合計)が大きいもの、演算時間の長いものはBATCH処理にまわすべきでしょう。そのため、TSS処理からBATCH処理にジョブを発生させることもできます。そのためにも「TSSの手引」をよく読んで下さい。

◎ BATCH処理の方法

あなたは、もうプログラムカードをお持ちでしょうか?まだプログラムカードをお持ちでない時は、プログラムコーディングシート(プログラムを書いた用紙)とブランクカード(なにもパンチ



していないカード)を持って2階のパンチ室まで来て下さい。パンチ機が空いていれば、どのパンチ機でもかまいませんので利用して下さい。

使用方法は、右側のホッパーにブランクカードをセットし、その下にある電源スイッチをONにします。FEEDキーを2回押下するとパンチする状態になりますので、タイプライター同様にパンチします。一行パンチし終ると最後にREGキーを押下します。(カードパンチ機の詳細な使用説明書は、脇机の中にあり

ますので参考にして下さい。)

プログラムカードがパンチできましたか? では、実際にコンピュータに入力して見ましょう。

一階の入出力室には、カードリーダー3台、ラインプリンター3台が並んでいます。

空いているカードリーダーにカードをセットしてSTARTボタンを押下します。

するとグッダッとカードを読み始めます。

カードが正常に入力されるとカードリーダー横のキャラクターディスプレイに緑色で

S Y S I N O K

と表示されます。コントロールカードの間違い等で正常に入力されない時は、赤色で

J O B D E L E T E

と表示されますので間違いを修正の上再入力して下さい。間違いのわからない時は、2階のプログラム相談室に相談して下さい。

正常に入力されれば待つこと数分(もちろんジョブクラス、混雑度によって待ち時間がちがいますが)で処理されます。処理結果はデマンドファイルと言う一時ファイルに出力されますので、IDカードを利用してラインプリンターに出力します。

ラインプリンターに出力する方法は、利用者ホールにデマンド出力端末が設置してありますのでそのIDカードリーダー(小箱の前面にIDカードが入るスリットが開いているもの)にIDカードを挿入します。(IDカードは、利用者受付に申請すれば、その場で発行します。印鑑がいりますのでお忘れなく)するとキャラクターディスプレイにどのラインプリンターに出力するかを表示し、処理結果を出力し始めます。

ラインプリンターには、自動カッターが付いていますので出力終了後1分でカット(続いて出力がある場合はすぐ)され、ラインプリンター下に出力されます。

以上でBATCH処理の一連の流れは終わりです。処理結果を見て間違いを修正します(始めは、必らず間違いがあると思います。)もし間違いがわからない時は、遠慮なく2階プログラム相談室に相談して下さい。

◎ 入出力棟のサービス

大型計算機センター本館のサービス時間は、通常9:30~17:00(土曜日は、12:00)ですが利用者の便宜をはかるため、本センター裏に入出力棟があります。ここは、通常9:30~19:00(土曜日は、12:00)までサービスを行なっています。

本館と異なる点は、入出力棟は、周辺装置と端末しかないため土足で入館できることと、入館の時に利用者かどうかチェックする点です。

入出力棟は、本館のサービス終了後もサービスを行なうからといって特に職員が残っているわけではありません。そのため誰でも入館できるのは保安上よくありませんので、入出力棟の入館時には、利用者かどうかチェックするのです。

チェック方法は、IDカードを利用します。入出力棟入口の2つ目のドア（入口は2重ドアになっています）の左側にIDカードを差し入れるスリットがあります。IDカードが正しければカチッと音がして解錠されますので入館して下さい。（このドアは自動ドアではありません手で押して入りましょう。またIDカードも忘れず持って行って下さい。）

入出力棟1階には、カードリーダー2台、ラインプリンター3台が設置してありますので、本館と同じバッチサービスを行います。2階には、端末15台とカードパンチが設置してありますのでTSSを利用される方は2階へ行って下さい。

◎ 最後に

大型計算機センターでは、ここに紹介した「TSS処理」や「BATCH処理」以外にも「スプール処理」、「A/D変換」、「D/A変換」等色々なことが出来ますのでそれらについては、2階のプログラム相談室で、相談されるか、利用者受付でそれらに関する手引をもらって下さい。

本センターでは、出来るだけ、多くの利用者に、多く利用していただくために、本館、入出力棟のサービス終了後にも、オンラインサービスは、21時（時期によって変更します）までサービスしていますので研究室等の端末からはその時点までコンピュータを利用することができます。

大型計算機センターは、多くの利用者が共同で利用する所ですから、予約して使用する装置（XYプロッタ、磁気テープ、端末等）は、必ず予約してから使用して下さい。

大型計算機センターにも、季節変動があります。夏休みは、利用者が減少し、卒論の頃は押すな押すなの大繁盛となります。初心者の方は、できるだけ閑散期（4月～9月）に利用されることをお勧めします。

（共同利用掛）

以前、センターニュースに連載（1980年2月～1981年8月（6回連載））してもらった塩野先生の「FORTRANとの比較によるPL/I入門」が本になりました。

大阪大学教授 手塚 慶一 監修

岡山理科大学講師 塩野 充 著

FORTRANユーザのためのPL/I入門

オーム社発行

図書資料室利用の心得

1. 開室時間

月曜日～金曜日 10:30～12:00, 13:00～16:30

土曜日、日曜日 閉室

ただし、祝祭日、年末年始および図書の整理を行う日などは閉室します。

2. 利用資格

- (1) 大阪大学内の本センター利用者有資格者
- (2) 大阪大学外の本センター利用者(課題番号所持者)
- (3) 本センター教職員

3. 室内閲覧

閲覧は必ず閲覧コーナー内で行って下さい。なお、書架への立入りは原則として禁止します。

4. 室外貸出

- (1) 図書、資料を室外に帯出する場合は、係員に申し出て、手続きを行って下さい。その時に必要なものは下記の通りです。

大阪大学内の者	{ 大阪大学附属図書館発行の図書貸出券(電算化利用者票は除く) 身分証明書の提示
大阪大学外の者	
	{ 課題番号の提示 身分証明書の提示

- (2) 禁帯出指定の図書、資料(辞書、数表、便覧、雑誌の最新号、特定のマニュアルなど)を除いて、貸出し期間と冊数は下記の通りです。

単行書、製本雑誌	1週間	} 同時に合計4冊以内
上記以外	1日間	

- (3) 貸出し期間をすぎても返却されない場合は、貸出しを一定期間停止することがあります。

5. その他

- (1) 本センターの各教官室内の図書についても、該当教官の同意があれば貸出します。
- (2) 閲覧、貸出し以外の目的で図書資料室内に立入らないで下さい。
- (3) 室内では他の利用者に迷惑のかからないようにして下さい。

\$ F P R I N T コマンドの機能追加について

\$ F P R I N T コマンドは、システム標準形式順編成 (F R C 形式) パーマネントファイルの内容をセンターのラインプリンタまたはリモート端末への出力する機能として

- ① バッチ、T S S 形式のファイル出力 (J I S、BCD コードのファイル)
- ② ラインプリンタイメージ形式のファイル出力
- ③ 圧縮出力

以上の機能をもっていましたが、今回次のような機能を追加いたしました。

- ④ ページプリンタへの出力 (漢字プリンタ)

(1) ページプリンタへの出力

レーザービーム方式で印刷出力されるプリンタ (漢字出力が可能) にファイルの内容を出力させる時は、\$ F P R I N T J (コマンドの省略形は \$ P R I J) を入力する。

(例)

```
*$FPRINTJ EXSAMPLE ..... ①
FORMSET ? ..... ②
SEND BY MAIL (YES OR NO) ? NO ..... ③
JOB CLASS (E/A/B/C) ? E ..... ④
```

SNUMB = 5700T

- ① コマンドと出力するファイル名を指定する。
- ② システムに登録されている F O R M S E T 名を指定する。
(7 P の漢字または 1 バイト系文字 (アルファベット、数字等) を出力する時は (CR) を入力)
- ③ ページプリンタへ出力された結果を連絡所送りにしない「NO」 }
" " 連絡所送りにする「YES」 } を入力する。
- ④ ファイル内容の出力量に応じたジョブクラスを指定する。

(2) FORMSET?の問答について

ページプリンタにファイルの内容を出力する時は、システムに登録されている書式によって、プリンタに出力できる文字数および文字の大きさが変わりますので、目的に合わせてFORMSET名を指定して下さい。

質 問	応 答	説 明
FORMSET?	?	システムに登録されているFORMSET名が端末に表示される。
	? FORMSET名	指定されたFORMSET名でページプリンタの1ページに出力できる文字数および文字の大きさの説明が端末に表示される。
	FORMSET名	指定されたFORMSET名に従ってファイルの内容をページプリンタへ出力する。
	キャリッジリタン	FORMSET名の「NORMAL」を指定したものとみなして、ファイルの内容をページプリンタへ出力する。

(FORMSET例)

```

FORMSET ??
      NORMAL
      ACSSP

FORMSET ??NORMAL
      NORMAL ... PRINTER IMEIJ I SHUTSURYOKU.
                (EIJ I)
                (SUUJI)
                64 GYD X 140 MOJI
                (KANJI)
                63 GYD X 140 MOJI (7P)

FORMSET ??ACSSP
      ACSSP ... ACBS HYDJYUN SHUTSURYOKU.
                (EIJ I)
                (SUUJI)
                55 GYD X 132 MOJI
                (KANJI)
                66 GYD X 128 MOJI (7P)

FORMSET ?
    
```

(業務掛)

データベース・サービスの案内

本大型計算機センターでは、従来より利用者開発のデータベースのサービス申請を受けて、学術情報データベースのオンライン・サービスをおこなってまいりました。以下にデータベース・サービスについてお知らせ致します。

1. サービスしているデータベース

データベース名	格納・サービス情報の内容	データベースの量	利用形態	利用説明書	管理者 問い合わせ先
PROTEIN-DB	たんぱく質結晶構造データ	約 300 件 (38MB)	TSS バッチ	たんぱく質 データベース 仕様書	阪大蛋白質研究所 結晶解析センター 06-877-9750
GEODAS	地質および地震データ	(30MB)	TSS バッチ	情報地質 センター・ ニュース Vol. 11, No. 3	大阪市立大学理学部 地学教室、弘原海清 06-692-1231
CONSULTANT	フォートラン・デバッグその他プログラム相談	(1.1MB)	TSS	センター・ ニュース No. 36, 38. Vol. 11, No. 2	大阪大学大型計算機 センター研究開発部 磯本征雄 06-877-5111 (内) 2833
NQR	核四極共鳴スペクトルに関する書誌情報と数値データ	2000 件	TSS バッチ	センター・ ニュース Vol. 11, No. 4	大阪大学理学部 化学教室 千原秀昭 06-844-1151 (内) 4210
JSR	日本国内に存する、学術研究・教育のための科学映画の2次情報	2000 件	TSS	準備中	東海大学工学部 菊川 健 0463-58-1211 (内) 3332
SPEECH-DB	音声データおよびその知的アクセス		TSS バッチ	準備中	大阪大学産業科学 研究所 溝口理一郎 06-877-5111 (内) 3566

アプリケーションパッケージのバージョンアップについて (再掲載)

クラスタ分析システム (CLUSTER-6) のバージョンアップを行ないました。

以前、変数の数>サンプル(個体)の条件の時に正しく実行されなかったバグが修正されました。また、追加機能として、測度行列ファイルに出力したりファイルから入力ができます。装置番号は08です。ただし、1つの階層的クラスタ分析の中では、入力または出力のどちらか一方だけで、ファイルはSTATPACの保存ファイル形式です。

以下の、ジョブデック及びコントロールカードで使用できます。

```

$      SNUMB      C
$      JOB        課題番号$パスワード, ジョブクラス
$      CPROC      HCLST (, , tt, , , ssss)
      )
$      ENDJOB

***EOF
    
```

注 () で囲まれたオプションは、省略可能ですが、ジョブクラスに応じて最大値を指定してください。ttはCPU時間、ssssは出力行数を示しています。

(1) コントロールカード

測度行列をファイルから入力する場合、入力データ名、変数の数、測度の定義や入力データの印字の指定は意味がない。

1 7 13 18 23 24 25 26 27 33

H C L U S T	入 力 デ ー タ 名	個 体 数	変 数 の 数	測 度 の 定 義	入 力 デ ー タ の 印 字	測 度 行 列 の 印 字	測 度 行 列 の 入 出 力	測 度 行 列 名	空	白
----------------------------	----------------------------	-------------	------------------	-----------------------	--------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	-----------------------	---	---

スプール処理システムについて（再掲載）

現在、スプール処理システムでは、次のような問題があり、解決には時間がかかりますので注意して使用して下さい。

- ① 磁気テープで、メニュー2を選択して、“OUTPUT FORMAT?”の問合せで“IBM, BIN”を入力しても、“IBM”と入力したように取り扱われてしまいます。但し、メニュー1の場合、“IBM, BIN”は正しく行われます。
- ② 磁気テープで、メニュー1を選択して、ラベル無しテープを入力しようとして、可変長“VLR”と指定して入力すれば、処理は中断します。当面、固定長として、入力レコードの最大レコードサイズを指定して入力して下さい。

次に、利用者の方が知っていれば便利な事項について下記に説明します。

- ③ 磁気テープで、メニュー5で、SAVEテープを作成して、メニュー6でSAVEテープを復元出来ますが、そのSAVEテープを、メニュー4で、ファイル単位、カタログ単位に復元することができますし、*ALLを指定すれば、メニュー6と同一扱いがなされます。そして、“FILE NAME?”で、*LISTと指定すればテープ上のファイル名のリストをとることが出来、BREAK キーを押すことによって、“FILE NAME?”の問合せに戻り、*ENDの入力で終了します。

ここで、ファイルの復元をおこなう磁気テープは、必ずスプール処理システムで作成したテープでないと利用出来ません。\$FILSYSで作成したテープは利用出来ないと言うことです。

- ④ 磁気テープで、メニュー2でテープを作成する場合に、レコードサイズとブロックサイズのファイルが異なる場合（FRC以外）は、現在のところそのレコードサイズとブロックサイズのファイル毎にテープの作成を終了させて追加して行く方法しかありません。
- ⑤ 磁気テープで、メニュー1でテープの読み取りで、FRC形式の場合、1レコードが1188バイト以上のデータは入力することは出来ませんが、FRC形式以外は4096W(MAX)まで入力できます。
- ⑥ 磁気テープで、“OUTPUT FORMAT”の詳細な問合せは手引きに明記されていますが、この問合せは無くなっています。このOUTPUT FORMAT? のところで、HELPを入力すれば詳細な表示がなされます。

（業務掛）